

こんにちは

会社訪問記

みんなの環境、みんなの手で、
豊かな自然を守ります。

近藤商事土木株式会社

(愛知県豊田市)

豊田市で収集運搬から最終処分まで一貫体制で産業廃棄物処理に取り組む近藤商事土木株式会社に伺い、近藤社長とグループ企業の株式会社クリーン近藤の近藤所長にお話を聞きました。

— まず、この焼却の中間処理施設及び最終処分場はいつ開設されたのですか。

近藤所長 (以下所長に略) 『平成2年に開設しました。ここには破碎及び焼却の中間処理施設と建設廃材の最終処分場があります。破碎は廃プラスチック類、金属くず、建設廃材を、焼却は木くずのみを取扱っています。』



近藤社長

— 貴社の創業は何年ですか。

また、事業内容を教えてください。

近藤社長 (以下社長に略) 『昭和46年です。事業内容は、社名からもおわかりの通り建設業、産業廃棄物の収集運搬業と処分業、採石業、砂利採取業そしてコンクリートの再生材の販売を行っています。』

— 産業廃棄物処理に取り組まれたのはいつ頃から。社長『昭和63年に許可を取得し、この業界に参入したわけです。処理業者としての歴史から見ると結構短いですね。』

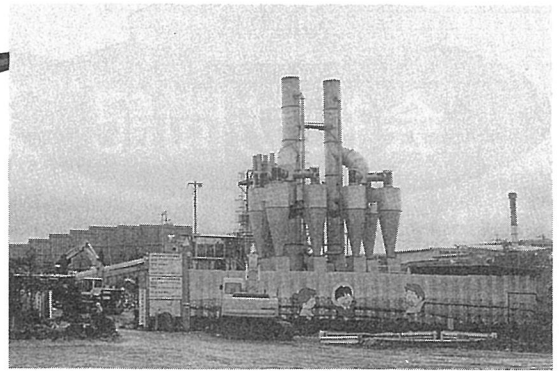
— 従業員は何名いますか。

社長『30名です。』

— 従業員の教育でここに気を配っているという点があれば教えてください。

所長『毎月定期的に管理者を対象とした責任者教育を行っています。これ以外に、週のはじめに行う朝のミーティング時に、従業員各自1週間のスケジュール目標を立てさせ、目標達成に向けて頑張るように指導しています。』

— 焼却炉の周りの囲いにいろいろかわいらしい絵が描かれています。あれはどんな意図があるのですか。



焼却炉

所長『施設内の美観を保つためにと思い、描いています。また、処分場の周りには立木を植えて、緑化対策に力を注いでおります。環境美化の配慮には細心の注意を払うよう努めています。もちろん、お客様に気持ちよく当社の施設にお出でいただきたいという願いも込め、従業員といっしょにいろいろ考えた結果、現在のようなったわけです。』

— 産業廃棄物処理に対する展望等を教えてください。社長『これからは、ますます最終処分場の設置が困難になります。今後は産業廃棄物を処分するのではなく、なくしていくという方向で事業を展開していくべきだと思います。そのために、ほとんどの産業廃棄物がリサイクルできるようにみんなでアイデアを出していくことが大切。現在、私が長年あためてきたアイデアを形にした新しいリサイクルプラントを考案中です。これからの産業廃棄物のあり方と地域にあった処理体制づくりを常に考え、少しでもすばらしいアイデアがあれば、実現していく方向で頑張っていきたいですね。』

— 最後に、貴社のモットーを教えてください。

社長『みんなの環境、みんなの手で、豊かな環境を守ります、です。』



社名/近藤商事土木株式会社 所在地/愛知県豊田市四郷町天道92番地の1
代表者/近藤 保 創業/昭和46年 従業員/30名 TEL/0565(45)0661
事業所/本社 関係会社/株式会社クリーン近藤、リサイクル近藤
営業種別/収集運搬、中間処理(破碎、焼却)、最終処分
取扱い品目/汚泥、廃油、廃プラスチック類、紙くず、木くず、動物性生残渣、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、建設廃材